

# 名戸ヶ谷ビオトープだより

第29号

2008年2月1日

名戸ヶ谷ビオトープを育てる会発行

<http://nadogaya-biotope.org/index.html>

発行責任者： 篠崎 将 Tel/Fax: 04-7173-6353

## 第6回総会無事終了

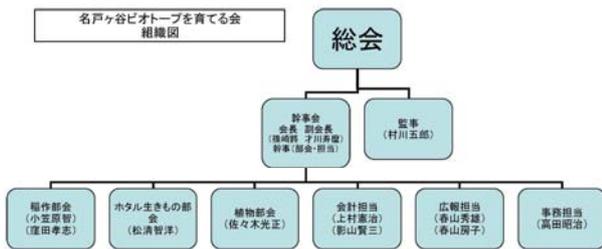
## 田圃の変化にすばやい対応を

第6回総会は1月26日(土)、午前10:00～11:00の時間帯で柏市南部クワンセンター・ホールで開催された。来賓として出席した柏市環境保全課松山氏の挨拶に続き、篠崎会長からの2007年度の活動に関する詳細な報告を受けたあと、決算・監査報告・2008年度活動計画・予算案、を含む第1号～第3号の各議案を承認し、10:50分に終了した。次いで11:00より鳥井報恩氏による講演「不耕起栽培の利点と注意点」がプロジェクターを使って約一時間に亘って行われ、12:00に散会した。



## 2008年度組織構成図

## 第1号議案



## 2007年度活動及び決算・監査報告

「稲作部会」からは田んぼの一部に繁茂したコナギの影響で収量は「不耕起部門」で前年比-78kg、「水田稲作部門」では大減収(前年比-92kg)となったことが報告された。田植え後の田圃の変化に即応し損ねた苦い教訓である。また、新規に掲示板が設置された結果、これを眺める市民が増えたこと、名戸ヶ谷小学校の環境教育への貢献に対して受けた奨励金でビオトープ紹介リーフを作成、関係各方面に配布したことも報告された。

## 第2号議案 2008年度活動予定および予算案審議

通年の活動に加えて、名戸ヶ谷小学校の協力を得てビオトープ展を秋に開催すること、「水田部会」からは水路の浚渫、土上げ、防水、木道の補修、植物部会からは08年度からのホタルゾーン北部の植生管理、Bゾーン北側のマコモ群落の除去、また、通年の活動に加えてBゾーン西南部の整備検討・池整備(ほたる・生きもの部会)、水草(コナギ他)の繁茂を根絶するための春先からの田起こしと徹底した摘み取り(水田部会)予定が報告された。また、広報活動推進のため、パネルの拡充整備を含む予算案が提案通り承認された。

**第3号議案 その他** 役員体制の継続と併せて会則第2章の第5、第6条の字句修正、第4章第10条および細則の補足が承認された。

## 講演「不耕起栽培の利点と注意点」(要旨)

日本不耕起栽培普及会 監事 鳥井報恩氏

○冬期水田湛水水田:米ヌカを振ることで藻類が発生し、植物性、動物性プランクトンが増殖する。稲刈り後できるだけ早く水を張る。イトミヅ、ユスリカ、アブの幼虫などの活動でトロトロ層が形成され、除草剤不要の水田が出現。水田にいる生きものたちの活動が稲を育てる。○イトミヅの排泄物の蓄積で無肥料栽培が可能な水田、生きもの活動による稲作が可能となる。

○食物連鎖が広がり、生態系が豊かになる。以下省略。(広報担当)

\*詳細はこの日配布された別紙プリントを参照のこと。



	全 般 (幹事会・広報等)	稲作部会 (在来水田)	稲作部会 (不耕起水田)	植物部会	ホタル・生きもの 部会
08/01	1/26 総会 講演会				
08/02	2/1 29号発行 2/2 定例幹事会	・畦直し(16日) (合同作業日)	・水路浚渫、土上げ、漏水工事		・Bゾーン西南部の整備、池整備
08/03	3/1 定例幹事会	・畦直し・田起し (15日)	・水路浚渫、土上げ、漏水工事		・アリガガリガニ除去・ ハイホウ 幼虫放流
08/04	4/1 30号発行 4/5 定例幹事会 *生きもの観察会	・田起こし (19日)	・水路浚渫、土上げ、漏水工事	*草刈り、清掃 作業(第3土曜日の 9時~11時30分)	↓ *生きもの観察会
08/05	5/3 定例幹事会 *生態系調査(春)	・代掻き(4日) *名戸小田植え (8日) ・植え直し(17日)	・苗購入、田植え、 植え直し、漏水工 事	・帰化植物の刈 り取り ↓	*生態系調査(春) ↓
08/06	6/1 31号発行 6/7 定例幹事会	・草取り(7, 14, 21 日)	・肥料散布 (合同作業日)	*大型植物、帰 化植物の刈り取 り ↓	
08/07	7/5 定例幹事会	*名戸小の草取 り(1日) ・草取り(19日)	・水量管理 (合同作業日)	・大型植物、帰化 植物の刈り取り ↓	・生きもの観察会 ・林の採卵と幼虫飼育 (希望者) ↓
08/08	8/1 32号発行 8/2 定例幹事会 *生きもの観察会	・雀対策ネット(2 日) ・草刈り(16日)	・水量管理 (合同作業日)	*大型植物、帰 化植物の刈り取 り ↓	*生きもの観察会
08/09	9/6 定例幹事会 *生態系調査(秋)	・ネットはずし * 名 戸小稲刈り(2日) *脱穀(30日)	・稲架けパイプ設営 ・稲刈り ・脱穀	・大型植物・帰化 植物の刈り取り ↓	*生態系調査(秋) ↓
08/10	10/1 33号発行 10/4 定例幹事会	・粳摺り ・精米 ・名戸小ふれあいの 集い		*大型植物の刈 り取り	
08/11	11/1 定例幹事会 ・ビオトープ展(秋)		・収穫祭(11/3)		・ホタルエリア水路整 備(合同作業日)
08/12	12/1 34号発行 12/6 定例幹事会	・年末大掃除 (合同作業日)	・年末大掃除 (合同作業日)	*年末大掃除 (合同作業日)	・年末大掃除 (合同作業日)

\* 印 は 委託事業 尚、日時は天候などにより変更になる場合があります。

# 鳥井先生をビオトープに案内して

私たちの困っている点をお聞きしました

Q: 稲の倒れと水落としについて

・水田にもよるが一週間位で何回も行うとよい。

Q: 雑草の処理について

・田起しより雑草だけ抜き取る方がよい。雑草の種が表に出ないように。

Q: 肥料について

・湧水は川水より窒素が少ないことを考慮することが大事。

Q: 美味しい米にするには

・ミネラルを散布すること。刈り取りは出来るだけ完熟してから。

尚、昼食会には多くの方が参加し、先生と1時間半の有意義な懇談でした。(才川 寿磨)



## 交流給食会に招かれて



田植えから脱穀まで米づくりに奮闘してくれた名戸ヶ谷小学校の5年生から1月30日(水)の給食会に招待され、会員9名が参加しました。9名が2教室に分かれてから、児童7、8人の班にそれぞれ仲間入りし、子どもたちがビオトープで収穫したモチ米を使って調理師さんが腕をふるってくれた「落花生おこわ」や鯛を使った「さんが焼き」などのメニューを、学校生活の様子などについて話を交わしながら、美味しくいただきました。歌や歓迎のコトバなどの歓待を受け、昼休みの短い時間でしたが、楽しい交流の一時を過ごすことができました。

### 本日の献立

らっかせいおこわ  
さんが焼き・いそかあえ  
わかめと豆腐の味噌汁  
みかん 牛乳

今回の交流会を通して、子どもたちに生命を育む農の営みに目を向けさせ、地域の人々との交流を折に触れて企画されている名戸小の先生方の食農教育の一端に触れることができました。

ビオトープで子どもたちが小さな動物や植物を慈しみ、稲を育てる喜びを知り、自立的な心を育んでくれる一助となっているのであればうれしいですね。

また、この日は戦後の昭和22年に日本で初めて学校給食が始まった記念すべき日でもあり、この日、名戸ヶ谷小学校の一階で交流給食会に招待されていた地域の高齢者のみなさんにも「落花生おこわ」が振る舞われ、ビオトープの紹介がされました。(上村 憲治)

## 水田稲作部会報告

### 冷水対策の水路つくり

湧水地に近いもち米水田では毎年冷たい水が入るため、稲の成長も実りも芳しくありません。収穫後に木道下に新しく水路を作り、田圃への入り口も端に寄せ、水路を通過する間に水が暖められるようにしました。1月の湧水温度は15℃でしたが、田んぼの入り口付近では13℃でした。夏になれば逆転しますので、外気温が30℃では4℃以上の上昇になるでしょう。

## インマン湧水地脇の階段を修繕

1月26日に踏み板が剥がれて危険な状態の階段を簡易修繕しました。歩道から湧水地点や木道に下りるのに安全になるでしょう。最小限の費用と資材の再利用で工事を行いましたので、今後きちんとした再修繕が必要です。(小笠原 智・窪田 孝志)



# ビオトープの生きもの



## アオサギ

## サギ科

英国ではグレイヘロン（灰色のサギ）だが、日本ではアオサギである。これは冠羽が薄いため、体は灰色である。日本で観察できる最大のサギである。ビオトープに来るのは主に冬で、水田かホタルゾーンで餌となる生き物を探している。手賀沼及びその周辺と大津川流域ではよく見ることが出来る。ヨシが枯れている今の時期は、ヨシ原を埒としていることが多い。飛んでいる時はキャという高い声で鳴くが、地上ではゴアという声になる。千葉県では要保護生物に指定されているが、年間を通して観察できる。

## ツグミ

## ヒタキ科



冬鳥の代表で、千葉県には11月頃シベリアから群れで渡来し、水田ばかりでなく、ヨシ原、樹林、住宅地にも姿を現し、4月頃まで観察できる。焼き鳥として捕獲されたため激減したと言われている。畑、水田、川原、芝生等、開けた場所を好んで餌をとる。数歩はねて胸をそらせた姿勢で立ち止まり、また数歩はねるという動作を繰り返す。飛び跳ねながら、クワア、クワアと鳴く。頂上から背は灰黒褐色、翼は黒褐色で、栗色の羽縁がある。秋冬は単独で生活するが、アシを刈った場所等に集まることがある。（篠崎 将）

## 合同作業の報告

12月15日には会員15名が参加してビオトープ恒例の年末大掃除、ゴミ収集や草刈りによって新年を迎える準備を整えました。また、これも年末の恒例行事



ですが、湿地にある池の泥あげなど池の整備作業を行いました。年明けの2月にはカエル達がこの池で産卵を始めます。産卵にふさわしい状態を保つ必要があります。カエル達の産卵が今から楽しみです。（佐々木 光正）



## 田圃の広さを測りました

「平板測量」方法を使いました。測定地点の真ん中付近に平らな板を置き、そこから田圃の四隅と曲がり角にポールを立てて放射状に角度と距離を測定します。測定結果：もち米水田が約165坪、うるち米水田は約240坪でした。今後は肥料散布や収穫量の目安になると思います。（小笠原 智・窪田孝志）

### 編集後記

厳しい寒さ続きの中でビオトープは一見冬枯れの様相。しかし田圃の土壌や水中では生きものたちが厳しい冬に耐えながら息を潜めてうらかな春の訪れを待っています。畦作り、田起こし、水路浚渫…春に備えた作業が早速始まりますが、木道補修作業と併せてみなさんのご協力をお願いします。松清幹事の労作である待望のビオトープ紹介リーフレットも完成しました。これを大いに活用して会員拡大に努めましょう。（広報担当 春山）